

## 会社はフェールセーフの理念を忘れるな！

名古屋地本は、8月21日、申第17号「東海道本線岐阜駅における特急「ひだ」号のホーム反対側ドア「開」に関する申し入れ」について業務委員会を開催しました。以下、申し入れと主なやりとりです。

### 【申し入れと回答】

東海道本線岐阜駅における特急「ひだ」号のホーム反対側ドア「開」に関する申し入れ

2017年6月26日午前10時9分頃、東海道本線岐阜駅において「ワイドビューひだ」25号の併合作業時にホーム反対側のドアが開となる事象が発生した。幸いにも旅客の転落は無くまた、隣接線にいた車掌が早く異常に気付いた事、当該列車車掌の防護無線発報により併発事故は未然に防ぐことができた。今回の事象は、たまたま幸運が重なっただけで一步間違えれば大惨事になると認識する。原因究明と今後の対策が求められる。マスコミ情報によるとジャンパ線連結と同時にATSを扱ったのが原因とされているが、本当の原因は定かでは無いと認識する。下記のとおり申し入れるので、早急に団体交渉もしくは、業務委員会を開催し誠意ある回答をすること。

### 記

1. 明確な発生原因を明らかにすること。

【回答】ATS-PTの電源を投入したタイミングでジャンパ線を連結したことにより増圧ブレーキ指令線からの回り込み回路が構成されたため。

2. 今後の再発防止策を明らかにすること。

【回答】(1)キハ85系及びキハ11形を併合した後のATSの電源投入については、車両の併合及び、ジャンパ連結作業の終了後に実施する。

(2) 同じ構造のジャンパを使用しているキハ85形及びキハ11形の端子について接続性の改良工事を実施する。

3. 現場では、6月27日以降ジャンパ線を使用しているキハ85系及びキハ11形の併合作業時のATS電源投入をジャンパ線連結作業終了後にすることと周知された。この間、同作業時には今回のような事象は発生していない。関連性を明らかにすること。

【回答】本事象はATS－PTの電源投入時に、増圧ブレーキ指令線が立ち上がる瞬間的な事象とジャンパ線連結中に接続する端子と接続しない端子が瞬間的に発生したことが重なったため発生した事象であった。

4. マスコミからの情報が先行し重要な問題にも関わらず組合に対しての説明が無い。安全に関わる事象については組合への説明をすること。

【回答】協約に則り適切に対応している。

5. 老朽化している車両に機器を後付して想定外の回路構成が生じている。新型特急車両の導入予定時期を明らかにすること。

【回答】(1)現在、特急「ひだ」「南紀」に使用している85系気動車の取り替えを見据え、次期特急車両「試験走行車」を新製する。平成31年末から試験走行車により技術の確立に向けた試験走行を行っていく。

(2)平成31年末の試験走行車完成後、1年間を目途に次期特急車両に必要なハイブリッド技術の確立に向けた基本性能試験と長期耐久試験等を行い量産車は平成34年を目標に投入する検討を進めている。

### 【やりとり】

組合:この間、何年間も同じ作業をしてきているが、このような現象は出なかった。何故なのか。

会社:マイナス線が繋がらなかった。これは、特異な現象である。

組合:何故、原因が特定できたのか。

会社:車両の運転情報により増圧ブレーキ指令とドア開指令が同時に立ち上がっていることから調べた。

組合:これまでは、運良く発生しなかったということか。

会社:そのようである。

組合:事象の再現は出たのか。

会社:同じ車両を名両区で再現を試みたらドアが開いた。

組合:にわかに信じがたい話である。組合への情報が全くない。再現試験等は、組合も立ち合わせてはどうか。

会社:深夜にわたって行っている。大変である。会社が責任を持って行う。

組合:対策で運転士のATS機器扱いをジャンパ線連結後としているが、原因は増圧ブレーキ指令 としている。キハ11形には増圧ブレーキが無い。何故、対策をとるのか。

会社:ジャンパ線の形式が同じであるためである。

組合:ジャンパ線の改良工事について具体的に示せ。

会社:マイナス回路端子を増設するのと、マイナス端子のピンを2mm程度長くする。今年度中にする。

組合:ATS－Pの回路を後付したことにより発生している。ドアが開かないようにフェールセーフは考えなかったのか。

会社:事象が発生したので安全策を行う。

組合:ATS－Pの後付により発生した事象なのか。

会社:後付はしたが、これによる事象とは言い切れない。

組合:次期の特急車両を設計中との回答だが、視認性向上と見栄えの観点から、高運転台とすること。

会社:ご意見として聞いておく。

組合:過去から踏襲されてきた異常が発生しても安全側に動作するフェールセーフの理念を貫徹すること。また、安全問題については組合に説明すること。

以 上